



## 四才児と五才児の 保育上の相違

永山 暁美

五月の声をきく頃になると、あの忙しかった入園式後の日々が、夢のように思われます。わずか二時間余りの保育時間が、何と長く思われたことでしょうか。一刻も早く一人ひとりの新しい幼児と仲好しになり、自分の家の延長のような楽しい級の雰囲気を感じてくれるようにと、全心を傾けた毎日——ようよう、一段落ついたというところでしょうか。大方の幼児が先生の手をはなれたこの頃、かえって快い疲れが感じられますが、さあ、これから、皆で検討して立てた一年間の目標に向かってそれぞれの級は手を取り合って、張り切って出発しましょう。

ここは三才児一級、四才児五級、五才児六級、全園児四六〇名という大世帯の幼稚園なので、園内を歩いて見ると、それぞれの年齢の特徴がとてよく分かります。

三才児の室を覗いて見ると、四、五才児の級とは、まるで違った世界が感じられ、一人遊び、平行遊びに打ち込んでいて、横目でちらっと見ても、入室者にはお構いなしというところです。ある時は先生のまわりに鈴なりになって、親どりとひよこのようにお庭で遊んでいます。時々、赤くふくらんだりんごのほっぺの方が鼻よりも高そうな幼児が、すごいスピードで庭を走りまわっては、また自分の室にもどってきたりしています。

幼稚園を約半々する四才児と五才児の保育室は、右と左に分かれて固まっています。やはり一年の年齢の差は、こうも違うものかと思うことがしばしばあります。

入園テストを見ても、四才児の日と五才児の日では、親に頼る気持、先生の言うことに対する理解、身体の動きの活発さ、所要時間

など著しく違っています。

また、入園式が終って保育室に戻る時、五才児なら二列に並んで歩くことは容易にできることなのですが、四才児では二人は手をつないでいるものの、どこへでもとび出して歩くので、四列にも六列にもなってしまうたり、果ては他の組の列に入り混ってしまう人もあったりして、並んで歩くということが、四才児にとってはこれほど難しいものかと思わせられます。

× × ×

一年間を通して考えてみると、五才児には生活指導と共に、生活を身につけて、一年間の終りには、小学校に進学する体制を整えるという目標があります。三学期を迎える頃になれば、遅れがちの人には、自然の発達を待つばかりでなく、周囲の者が後押しをしなくても、ある程度、集中して話を聞くことができ、仕事に対する意欲や、時間内に物事をやり遂げるように努力する態度などを養わなければならぬと思います。

この点、四才児は、十分に遊びながら、一年をかけて生活指導を確立し、一人ひとりのさまざまな芽生えの、よいものを育くむ余裕があります。

また、日々の保育をするにあたって、五才児の場合に特に注意しなければならぬことは、自由遊びを大いにして、型にはまらないよう、個性を失わないようにすることと、他から与えられる力でない

く、自分自身の力を引き出して伸ばしてゆくということではないかと思えます。

四才児ですと、自分のやりたいこと、納得のいかないことは、注意を受けても平気で続けたり強行したりという、自己を主張する場面がしばしば見受けられるようです。スクール・バスの中で、席があいているのに、どうしても立っているという人、落したハンカチに自分の名前が書いてあるのに（字が読めない故もあって）、「自分ではない」と言い張って受け取ろうとしない人など、四才児には、たいていその人特有の逸話があるようです。五才児になるところ、特徴をつかみ、個性に応じた指導の方針を立てるのが難しくなるのではないのでしょうか。集団の中にあっても自分の意見をはっきりもち、それに伴う責任ある行動がとれるよう指導できればと思います。

表現活動に対する心構えとして、五才児では、できるだけ、自分で発案し、工夫し、完成するように誘導し、先生はよくそれを見守って、必要に応じて助言をする立場であり、四才児では、先生と一緒に発案し、できるだけ工夫するように興味を誘ったり、励ましたりいたします。またその持続時間は、五才児と四才児ではかなりの差があるので、年令、時期に応じた時間をよく考えて、無理にならないよう注意しなければならぬと思います。

それから、運動について考えるとき、四才児と五才児では体の発育

状態が違うという事を知っていなければならぬと思います。四才児になると、おとなと同じように歩けたり、四才児に比べかなり運動機能が発達したとはいうものの、大きい筋肉と小さい筋肉が調和して働くところまでいかないので、体の動きのなめらかさ、平衡が充分でないということです。危険なものや高度の遊具によく注意して、少しくらい衣服を汚しても、思いきって遊び、疲れたら休息をさせることが大切だと思います。五才児になる頃には、だんだんにおとなと同じような腹式呼吸になるといわれますが、そういえば、かなりの運動に疲れないようになり、相当の距離を走れたりします。

また、乳歯が抜け始め、永久歯が生え、自分でも「大きくなった」という自覚ができて、何となく落ち着いてくるのもこの頃のようにです。そこで、五才児には体の発育を促す、運動量の多いもので、構成力、創造力を伸ばすような遊具などを身近において、全身の調和や平衡能力を養えるように留意したいと思います。雨の日でも、広い遊戯室には大積木、飛箱、平均台、相撲マットなどがあり、幼稚園ならではの、こんなすばらしい遊びはできないと思います。

保育室の環境設定をする上にも、四才児と五才児では、扱い方が違ってくると思います。四才児は情緒に富み、想像力がたくましく、動物やお人形にも、名前をつけて遊び、絵をかくにしてもたくさん、動物やお人形にも、名前をつけて遊び、描いているうちに、何かの形や説明が生れてきたりというふうですから、保育室も自由な雰囲気が必要だ

と思います。幼児たちの表現したものの飾り方にもいろいろと工夫して変化をもたせたり、幼児たちの自由に描いたり、飾ったりする空間を用意しておくことや、形の固定しない遊具なども豊富にそろえておきたいと思います。五才児の保育室には、のびのびと明るい雰囲気の中に時間、月日、季節の移り変り、それに幼児に興味ある社会のできごとなどを、どこかの片隅にでも取り入れ、事物に対する興味や疑問を起させるように環境を整えたいと思います。

けんかについても、四才児と五才児では原因が大分違ってきます。四才児では遊具の所有や、順番とか、グループ遊びの中での譲り合いができなかったり、主として社会性の未発達からくることが多いのに比べ、五才児になると、けんかが少なくなる代りに、自分の所有物や権利が侵される時、それが他人の場合にでも激しいけんかになることがあります。どちらの言い分もよく聞いて、理由をはっきりさせ、こういう機会に寛容ということなども身につけられるのではないでしょうか。二期期の末頃、「野口英世」とか「フランスの犬」とか「七つの星」などのお話を聞いたり、紙芝居を見たりした時、感激して鼻をすする幼児も見受けられました。他人のためにつくすという行為に、これだけ感銘を受けるといことは、五才児後期の指導に加えられてもよいことだと思います。

× × ×  
これまで「五才児」と一口に言ってきましたが、一年保育の幼

児と、二年または三年保育の幼児では、一学期のうちは殊に、保育の上で差があるのは当然のことです。四月、五月の頃は、一年保育五才児と四才児の指導は、ある場合には同じであつてよいと思ひます。何といつても一年保育の幼児は、一年間に四才児と五才児の過程を、急ぎ足で通らなければならぬので、たいへん忙しい一年であるわけです。

最後に、昨年末のクリスマスお遊戯会に現われた、サンタクロースに示した三才児、四才児、五才児の反応がおもしろかったので記したいと思います。

年少組と年長組とは、続いた別の日に会をいたしました。始めの日、「サンタクロースの歌」の半ば程からある先生の扮するサンタクロースのおじさんか現われると、じつとみつめて、だんだん後退りを始め三才の女児が、いきなり「わあっ」と泣き出して、先生にしがみつき、しゃくりあけながら、それでも最後までサンタのおじさんを見送っていました。他の三才児は歌をうたう事を忘れて、ふしぎそうに見上げていました。四才児はすぐに、「サンタクロースだよ」と、ざわめき始め、遂に歌はピアノだけになってしまいました。

次の日、五才児のある級の「サンタのおじいさん」の合奏の時、ステージの袖からサンタクロースが登場しました。そばにいた幼児

は、びっくりした様子で、サンタクロースの方にすっかり気をとられてしまいました。が、それでも歌や、合奏は、ピアノと共に終りまで聞えてきました。

三才児 「ほんとにサンタのおじいさんがきたね」

四才児 「サンタクロースに握手されて嬉しかったけど、気味が悪かったよ」

五才児 「お面の下に首が見えていたから、サンタクロースは人間だよ」

「先生かも知れないね」

「長靴はぬれているし、変だなあ」

× × ×

思えば、三才児から五才児まで、人間形成の最も大切な時期を預かる私たちは、もつと幼児について勉強をし、観察し、研究しながら、今の時期でなければできない幼児の教育に、できるだけ努力をしてゆかなければならないと思ひます。

(洗足学園幼稚園)

× × ×  
× × ×  
× × ×